



乳がんについて事例を基に解説する福田護院長

乳がん個別化医療進歩

八学大で
セミナー
学生らに事例紹介

八戸学院大健康医療学部は8日、同大の学生会館で地域医療セミナーを開き、聖マリアンナ医科大付属研究所プレスト&イメージング先端医療センター付属クリニックの福田護院長が「乳がんの正しい知識を学ぼう」検診、診療、ピンクリボン活動をテーマに講演した。同学部の学生らは、病気への理解を深めつつ、患者に寄り添う治療の大切さを学んだ。

福田院長は乳がんの種類や診療、検診、乳房の再建手術などについて事例を基に解説し、「患者の体質や病気の特徴を把握し、一人一人に合わせた『個別化医療』が進歩している」と説明。主治医を務めたがん患者の治療を振り返り、「医者と患者は治療を通して人として共に成長していくもの」とし、患者と共に活動を展開したピンクリボン運動についても紹介した。

また、小、中学校でのがん教育を行うことで、児童、生徒の意識が向上すると同時に、保護者世代の検診受診率もアップしたというアンケート結果を提示。学生のうちから、がんについての正しい知識を身に付けることの必要性を訴えた。

(三浦千尋)